

全国学力・学習状況調査の結果について

○調査期日：平成30年4月17日（火）

○調査対象：小学校第6学年及び中学校第3学年

○調査内容・1 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）

※学力調査は，主として「知識」に関する問題（A問題）と主として「活用」に関する問題（B問題）の2種類からなる。

2 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

調査結果の概要

【小学校 国語】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
話すこと・聞くこと	◇ 図書館への行き方の説明として，適切なものを選択する設問では，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 計画的に話し合うための司会の役割について捉えることに課題がある。
書くこと	◇ 物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する設問では，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして詳しく書くことにおいて，全国平均を上回っているものの，正答率が16.0%と十分ではなく，今後の指導を要する。
読むこと	◇ 登場人物の心情を捉える手がかりとして，行動や会話等の中から情景描写を選択することにおいて，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 目的に応じて複数の本や文章等を選んで読むことにおいて，全国平均を上回っているものの，正答率が49.4%と十分ではなく，今後の指導を要する。
言語について	◇ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題がある。 ◆ 文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書くことにおいて全国平均を上回っているものの45.0%と十分ではなく，今後の指導を要する。
今後に向けて	
<p>「話すこと・聞くこと」においては，司会者は目的に応じて話し合いを進行するために，提案者の意見を受け，整理し，参加者の考えを引き出す等の役割があることを指導する必要がある。</p> <p>「言語についての知識・理解・技能」においては，日常生活において，相手と自分との関係や，話題に出ている人物と自分との関係等を意識しながら，尊敬語や謙譲語をはじめ，丁寧な言い方を使うことを指導する必要がある。また，主語と述語の関係については，適切な係り受けの関係となっていることが重要である。主語の部分が人でない場合は，述語に「こと」等を補い，適切に照応させる。表現するときだけでなく，文章を読むときにも主語と述語の関係を強く意識するように小学校低学年から継続して指導する必要がある。</p>	

【中学校 国語】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたり，必要に応じて質問したりすることにおいて，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◇ 話合いの話題や方向を捉え，的確に話すことにおいて，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことに課題がある。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書くことにおいて，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◇ 段落相互の関係に注意し，読みやすく分かりやすい文章にすることにおいて，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◇ 古典を現代語訳した文章を読み，相手に的確に伝わるように，あらすじを捉えて書くことにおいて，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 目的に応じて文章を読み，求められている内容を整理して書くことにおいて，全国平均を上回っているものの，正答率が14.7%と十分ではなく，今後の指導を要する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 文章の構成や展開について自分の考えをもつことにおいて，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◇ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み，内容を理解することにおいて，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◇ 登場人物の言動の意味などを考え，内容の理解に役立てることにおいて，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることにおいて，全国平均を下回っており，今後の指導を要する。
言語について	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことにおいては，全国平均を上回っている。 ◆ 文脈に即して漢字を書くことにおいて，3問すべてが全国平均を下回っており，今後の指導を要する。 ◆ 語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使うことにおいて，7問中3問が全国平均を下回っており，今後の指導を要する。 ◆ 目的に応じて文の成分の順序や照応，構成を考えて適切な文を書くことにおいて，全国平均を下回っており，今後の指導を要する。 ◆ 行書の基礎的な書き方を理解して書くことにおいて，全国平均を下回っており，今後の指導を要する。
今後に向けて	
<p>「書くこと」においては，複数の情報同士の関係を捉え，整理して書くためには，書く内容に加えて，自分の伝えたいことが読み手に正確に伝わるように，指示語や接続詞などを的確に用いて文章を構成することができるように指導することが必要である。また，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導との関連を図り，話し言葉と書き言葉との違いや，文の成分の順序や照応，文の構成などについて考えたり，多様な語句について理解を深め，表現に生かしたりするように指導することも重要である。</p> <p>「言語についての知識・理解・技能」においては，学習してきた多様な語句を意識的に使用するよう指導する必要がある。その際，取り上げようとする語句について他に適切な表現がないかを考えたり，複数の語句を比べてどれが最もふさわしい表現かを検討したりすることも重要である。</p>	

【小学校 算数】

領域	結果の概要 (◇：成果 ◆：課題)
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解することができる。 ◆ 小数の除法の意味についての理解に課題がある。 ◆ 示された考えを解釈し、条件を変更した場合について考察した数量の関係を、表現方法を適応して記述することに課題がある。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 分度器の目盛りを読み、180° よりも大きい角の大きさを求めることができる。 ◆ 面積が等しい場合の混み具合についての理解について課題がある。 ◆ 二つのシートの混み具合を比べる式の意味の理解について課題がある。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360° になっていることを記述することができる。 ◆ 円周率の意味や、直径の長さと同周の長さの関係について理解することに課題がある。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 基準量と比較量を正しく捉えて割合を計算し、百分率を求めることができる。 ◇ 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる。 ◆ メモとグラフを関連付けて解釈し、表現することに課題がある。 ◆ 一つの事柄について表したグラフを読み取ることについて課題がある。

今後に向けて

「数と計算」においては、問題を解決する過程で、数量の関係を捉え、数量の関係を図や数直線などに表す活動を位置付け、計算の意味の理解を基に演算決定をすることができるようにすることが大切である。また、日常生活の問題の解決のために、複数の情報を解釈し関連付けて論理的に考察し、判断の理由について根拠を明確にして説明することができるようにすることも大切である。

「量と測定」においては、混み具合について、面積や人数のどちらか一方の量がそろっていれば、もう一方の量の大小で混む具合を比べることができることなどを、実感的に理解できるようにすることが大切である。また、単位量あたりの数値を比べる場合には、式の意味を問題場面や図と関連付けて捉え、求めた商の意味を考えることで「 1m^2 あたりの人数」なのか「1人あたりの面積」なのかに注意をして混み具合を比べる必要がある。

「図形」においては、直径の長さと同周の長さを調べたり、同周の直径に対する割合を調べたりするなど、作業的・体験的な活動を通して、円周率の意味や、直径の長さの関係について理解できるようにすることが大切である。また、図形の構成要素や性質を基に、筋道を立てて考え、事柄が成り立つことを説明することができるようにすることも大切である。

「数量関係」においては、グラフの特徴を総数や変化といった複数の観点で捉えるために、他者が読み取った情報や観点をグラフや着目点と関連付けて解釈することができるようにすることが大切である。また、グラフから読み取った情報が適切かどうかを検討したり、考察した結果から見いだした新たな問題を解決したりするために、総数や割合を表す新たなグラフを作り、それぞれのグラフから読み取ることができる情報を関連付けながら考察することができるようにすることが大切である。

【中学校 数学】

領域	結果の概要 (◇:成果 ◆:課題)
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 正の数と負の数の意味について、実生活の場面に結び付けることができる。 ◇ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 ◆ 数量の大小関係を不等式に表すことに課題がある。 ◆ 具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することに課題がある。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる。 ◇ 四角錐の体積と四角柱の体積の関係について理解できている。 ◇ ひし形の性質について理解できている。 ◆ 三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係の理解に課題がある。 ◆ 折り目の線と角の二等分線の関係を理解することに課題がある。 ◆ 三角形の合同条件の理解に課題がある。 ◆ 証明の必要性和意味の理解に課題がある。 ◆ 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 1次関数の意味を理解できている。 ◇ グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる。 ◆ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 与えられた資料から中央値を求めることができる。 ◆ 表などを利用して、確率を求めることに課題がある。 ◆ 与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることに課題がある。 ◆ 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。
今後に向けて	
<p>「数と式」においては、事象における数量の大小関係を不等式に表すことができるようにするために、事象において比べようとする数量に着目し、文脈に沿って「以上」、「以下」、「より大きい」、「未満」のいずれかを的確に捉え、不等号を用いて表現する活動を重視することが大切である。また、目的に応じて等式を変更することができるようにするために、2つ以上の文字を含む等式を、ある文字について解く場面を設定し、目的に応じて変形できるように指導することが大切である。</p> <p>「図形」においては、付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現することができるようにするために、新たに条件を加えた際、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論について検討し、それらを数学的に表現する活動を充実させることが大切である。</p> <p>「関数」においては、様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させることが大切である。その際、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させることも重要である。</p> <p>「資料の活用」においては、確率を求めることができるようにするために、樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得る場合を順序よく整理し正しく数え上げられるように指導することが大切である。</p>	

【小学校 理科】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
エネルギー	<p>◇ 乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用することができる。【適用】</p> <p>◆ 太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係について、目的に合ったものづくりに適用することに課題がある。【適用】</p>
生命	<p>◇ 骨と骨のつなぎ目を表す言葉について、知識が定着している。【知識】</p> <p>◆ 人の腕が曲がる仕組みを示された模型に当てはめることに課題がある。【適用】</p>
物質	<p>◇ 海水と水道水を区別するために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察することができる。【分析】</p> <p>◆ 食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善することに課題がある。【改善】</p>
地球	<p>◇ 流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉について、知識が定着している。【知識】</p> <p>◆ 流れる水の働きについて、より妥当な考えを導き出すために、実験結果を基に分析して考察することに課題がある。【分析】</p>
今後に向けて	
<p>今回の調査結果では、問題の枠組みで「適用」「分析」「改善」に、特に課題があることがわかった。「適用」に関する出題では、学習した内容を活用し、目的に合わせてものづくりをしたり、模型で説明したりする活動が重要である。「分析」における流れる水の働きに関する出題では、より妥当な考えをつくり出すために、観察、実験などで得られた結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにするには、得られた結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら説明できることが重要である。「改善」における食塩水を熱したときに関する出題では、実験結果を整理して結論をまとめる際に、結果を事実としての確に捉え、事実から解釈したことを「実験の結果からいえること」として言及できることが大切である。</p>	

【中学校 理科】

領 域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
化学的領域	◇ 酸化カルシウムと水の化学変化について，加熱時間と上昇した温度の関係を表したグラフを分析して解釈することができる。【分析・解釈】 ◆ 原子と分子の違いについて正確に理解することや，基礎的な原子を記号で表すことに課題がある。【知識】
地学的領域	◇ 複数の地震の記録と緊急地震速報の情報とを関連付けて分析して解釈することができる。【分析・解釈】 ◆ 日本周辺の高気圧（気団）の特徴についての知識の定着に課題がある。【知識】 ◆ 植物以外で湿度が上昇することに関して「原因として考えられる要因」を全て挙げ，問題解決の知識・技能を活用して，条件を制御した実験を計画することに課題がある。【構想】
物理的領域	◇ 豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と結果の表から電力の数値を分析して解釈し，規則性を見いだすことができる。【分析・解釈】 ◆ 光の反射の幾何学的な規則性などの科学的な知識や概念を身の回りの事象に活用することに課題がある。【適用】
生物的領域	◇ アサリが砂を出す条件について，修得した知識・技能を活用して，観察・実験の分析して解釈することができた。【分析・解釈】 ◆ 自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験を計画することに課題がある。【構想】
今後に向けて	
<p>今回の調査結果では，問題の枠組みで「構想」に，特に課題があることわかった。原因と結果の関係で考える自然の事物・現象を扱う際，予想や仮説を立てて，検証するための観察・実験を計画できるようにすることは，科学的に探究する能力の基礎と態度を育成する上で大切である。</p> <p>指導にあたっては，はじめに「変化すること（従属変数）」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ，それらの妥当性を検討する。次にそれらの要因を「変える条件（独立変数）」と「変えない条件」に整理して，実験を計画する学習場面を設定することが考えられる。</p> <p>その際，「原因として考えられる要因（独立変数）」の変化に伴って，「変化すること（従属変数）」がどのように変化するかというという視点を踏まえ，課題解決の見通しが明確に実験を計画できるようにすることが大切である。</p>	